

8月



あの日のあの川 リレー日記 ～第51話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第51話主人公 山口まりな

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：江戸川)

「夏も冬も川とともに」

いつのこと？：6歳～

どこの川？：江戸川

はじめまして。笹目くんからバトンをもらいましたので、昔の思い出をたどりながら私にとっての「あの日のあの川」を書かせていただきます。少しの間だけ、拙い文章にお付き合いください。

私は小学校に上がるタイミングで神奈川県から母の実家のある東京都江戸川区に引っ越してきました。家から江戸川までは徒歩1分。それからは、川のある暮らしが当たり前になりました。とにかくたくさん思い出があるのですが、あえて厳選せずに

私が川の近くでどう育ってきたか振り返ってみたいと思います。

小学生のころは行動範囲が家から近かったため、特に川との思い出がたくさんあります。夏休みの朝は6時半に河川敷の公園でラジオ体操をすることから始まりました。学校の宿題で、ラジオ体操に行くスタンプがもらえるというものがあったのです。当時は眠くて嫌々行っていたが、健康的でよかったです。午後には、友達と遊ぶ用事がなければ、妹と一緒に父に連れられて川のほうへ出かけ、虫取りや魚釣りをしました。土手や河川敷は草でおおわれているので、バッタやモンシロチョウがたくさんいるのです。また、江戸川にはハゼや手長エビがいて、川べりからすぐそばへ糸を垂らすと釣ることができました。満潮の時は特に落ちるのが怖くて父の近くでおとなしくしていましたが、なんだかんだ釣れる楽しさのほうが大きかったように思います。釣れた日は母が夜ご飯で唐揚げにしてくれたので、それも楽しみでした。今思うと、川の近くに住んでいたことでより楽しい夏休みを過ごせていたかもしれません。虫取りはもう虫が嫌いでもやらないと思いますが、釣りのほうは大学に入ってからまた父と一緒に行くようになりました。

夏の江戸川は一大イベントがあります。毎年8月の第一週に行われる江戸川花火大会です。規模も数も大きく、引っ越してきて初めて見た時の感動は今でも忘れられません。それから家族で毎年大切にしている行事で、場所取りをして祖父母やそのお友達、両親に私が呼んだ友達と大人数で見えています。明るいうちから土手のブルーシートにじゅうたんを敷いてお弁当を食べ、夕焼けの江戸川を眺めながら待っているとカウントダウンが始まります。ゼロという声とともに一気にドドドッと打ちあがる瞬間はものすごい迫力です。今年はコロナウイルスの影響で開催なくなってしまって残念ですが、また見に行けるのを楽しみにしています。

小学校の高学年から中学生のころは、冬にマラソン大会に向けて河川敷を走ったりもしていました。早朝の川はとてもきれいで、景色を見ながら走るの爽快です。毎日走るうちに折り返し地点がどんどん遠くなりました。キラキラした川を見ながらだから長距離のランニングも頑張れたように思います。

小学生のうちには遊びや活動の場所だった河川敷は、中学生になると自転車で通り過ぎる場所になりました。遠くの地域の友達もでき、公園や河川敷ではなくショッピングセンターに行って遊ぶようになったのです。私の中学から一番近いショッピングセンターは自転車で20分ほどの千葉県にあるところだったので、部活のない日曜日には友達と自転車で橋を渡って遊びに行っていました。大河川なので橋が長くて大変でした。川との距離は少し離れたように思いますが、頻りに橋を渡っていたという期間も珍しいかなと思います。

高校生になると、都心まで電車通学になり江戸川に行く機会はますます少なくなりました。ソフトボール部に入ったので土日も遠征が入ることが多く、休日らしい休日はありませんでした。しかし、冬休みだけは川に行く機会がむしろ増えたかもしれません。10日間ほど部活が休みになるため、体がなまるのが嫌で中高ソフト部だった母親によくキャッチボール相手になってもらっていました。河川敷はキャッチボールに最適な環境でした。広いし人は少ないし道路に面していないため危険も少ないからです。フライの練習まで思いっきりできました。母と川には改めて感謝です。

大学生になってからは学校の近くで一人暮らしをさせてもらっていたのですが、コロナウイルスの影響で授業がオンラインになってからは実家に戻ってきました。家族と一緒に暮らすのは久しぶりでしたが、父とウナギを釣りに行ったり姉弟で土手をランニングしたりもして仲良く過ごしています。

江戸川の近くで育ってきた自分の記憶をひたすら書いてしまいましたが、最後までお付き合いいただきありがとうございます。江戸川は大河川で、水辺でパシャパシャ遊ぶといったことはなかなかできません。しかし、大河川だからこそその景色や広々とした河川敷は、私にたくさんの体験をくれました。そして、これからも近くで支え続けてくれるのだと思います。

(次は鈴木雄大さんにバトンを託します)